

(様式2)

豚鞭虫症の発生を契機とした衛生対策

： 飯田家保 佐野夏葉

2015年8月に母豚40頭規模の養豚一貫経営農場で、120日齢から150日齢の肥育豚が血便を呈し多数死亡。病性鑑定の結果、急性鞭虫症と診断。立入検査を行い、母豚及び肥育豚のステージ別糞便検査を実施。肥育豚舎でコクシジウム、豚鞭虫及び豚回虫の濃厚感染を確認したためフェンベンダゾール製剤を用いた駆虫プログラムを提案。その後も死亡が散発したため9月中旬に肥育豚へのイベルメクチン投与及び離乳豚へのトルトラズリル投与を指導するとともに、消化管内寄生虫の感染状況を追跡調査。同時に肥育豚舎はコンクリート製の床に敷料として戻し堆肥を利用していたため、豚房の清掃・消毒、堆肥の発酵処理等の衛生管理の見直し及び適切な管理記録の作成を指導。感染状況に応じたイベルメクチン投与と新たな豚房の衛生管理プログラムにより虫卵数は減少し、10月以降は肥育豚舎での鞭虫症を原因とする死亡豚の発生を防止。更に、定期的な立入検査により衛生意識が向上。今後も効果検証を行いながら総合的な経営改善への取り組みも指導していく。